



ラ オ ス の

農村に小学校を建てる

元県立こども療育センター所長 谷川 裕先生



谷川ご夫妻

あかね会特別講演会を、8月24日(土) 磯部コミュニティセンターにて開催しました。

講師には、谷川 裕先生をお招きし「ラオスの農村に小学校を建てる 安サラーマーンにでもできた」と題してお話されました。

谷川先生は、昭和17年に丸岡に生まれ、地元の平章小、城東中を卒業され、藤島高校を経て、金沢大学医学部を昭和41年に卒業されました。

しかし、当時学部紛争の中のため捕鯨母船の船医として半年間乗船しておられます。

そして、福井県立病院外科に採用され、定年退職まで25年間勤務され、その後、こども療育センター所長を経て現在は、県病検診センターにて嘱託医として勤務されています。

・どうして小学校を建てる気になったのでしょうか?

昭和23年福井大震災で、弟と共に倒壊した家の下敷きになったが、父親たちに助け出され九死に一生を得ることができた。助かった命、幼かったがいつかは人の為になることをしようと二人で誓い合ったことがきっかけです。

・弟さんがAEFA設立

AEFA(アジア教育友好協会)は、アジアや日本の子供たちが世界に目を開くきっかけを提供し、アジアの将来を担い未来を育てることを目指し、学校建設により貧しさや格差に喘ぐ地域で教育環境



ラオスの子供たち

の設備を通じて、子供たちが希望を持ち将来の夢を広げる環境を整えることを目的としています。

・ラオスの概要

インドシナ半島唯一の内陸国のラオス。人口は686万人。山岳地帯には少数民族が



ラオスの位置

多く居住し、不発弾や枯葉剤等ベトナム戦争時の爪痕が未だに残る地域です。土壌が痩せており耕地も少なく、村の生活は貧しい状態です。まずは食べるための農業や食材集めが優先され、教育を受けていない子供が60%に達している地域で、小学校があっても掘立小屋のような建物しかなく安心して学べる環境ではありません。

・ラオス視察

まずは、平成26年にラオスの教員養成短期大学に、食事テーブル付きの炊事場を整備しました。炊事場の名称を、「フサコハウス」と付けまし

た。炊事場はガス水道もなく木炭や練炭で調理します。翌年11月に中学校建設を援助した方と共にラオスを訪問し建設現場を検討しました。

・「輝く瞳のこの子達のために」小学校を建てる

学校建設は、平成27年1月に着工し、村人たちが積極的に参加し木材の伐りだし、校舎のレンガ積みなども行いました。

子供たちも一生懸命草取りをし、雨季になると水につかる土地のかさ上げも村人たちが中心となって行い、校庭を整備しました。私達は、いつでも子供たちが運動できるように整備された校庭にプレイマツトを寄贈しました。



ノンコーソン小学校

着工から一年半後の、平成28年10月に、ノンコーソン小学校開校式の運びとなり大歓迎を受けました。

(総務 上坂)